



CIF JAPAN

NEWSLETTER No.43

<https://cif-japan.com/>
2020/3/1 発行

Council of International Fellowship Japan

発行人 NPO 法人 CIF ジャパン 理事長 坂本正路

編集人 坂岡隆司 発行日 2020年3月1日

事務局 〒607-8216

京都市山科区勤修寺東出町 75 からしだね館

Tel.075-574-2800 Fax 075-574-0025

ホームページの再開を喜びます

理事長 坂本正路

リニューアルのためしばらく閉鎖しておりましたホームページが、このほど再開されました。新しくなったホームページが、ますます有効活用されるようにと願っています。

さて、第3回目となります日本における IPEP (International Professional Exchange Program) 研修ですが、昨年 11 月より国際本部のサイトを通じて各国に案内、参加者募集をしているところです。まもなく締め切り、選考、そして 10 月の本番に向けて準備を進めて行くこととなります。研修の成功に向けて、皆様のご協力は必須です。何とぞよろしく願いいたします。

ところで、昨年 7 月に C I P U S A のラケル・カフードさんが再来日され、米軍の厚木基地で働かれることになりました。前回、横田基地で働かれたときは、独立記念日に私たちを招いてくださったこともあります。今年の日本での I P E P の際にはラケルさんにも協力いただきたいと願っています。



中央ラケルさん、左長男のJED夫妻、右筆者夫妻

《ラケルさんからのお手紙》

坂本さんへ

CIP のメンバーのラケルからお便りします。このたび私は再び日本に帰ってきました。今回の勤務地はアメリカ海軍の厚木基地です。そして住居は基地近くの海老名の素敵な住まいです。どうぞ連絡をください。そして近々お会い出来れば幸いです。また、私は CIF JAPAN の会員になりたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

RAQUEL CAJUDO (ラケル・カフード)

インド再訪記

三宅浩

(2004 Kalamazoo)

本年 1 月 25 日、ムンバイにて CIF INDIA の方々にお会いすることができました。お会いしたのは、Mr. Ratnakar Khaire (President)、Ms. Sangita Mehrotra (Vice President)、Ms. Iva Athavia (Past President)、Ms. Ummehani Nagarwala (CIF INDIA の創設者) はじめ計 7 名。

お茶をしながら意見交換を行い、その中で来年 11 月にジャイプールで開く CIF の国際会議や毎年行っている IPEP にもぜひ日本から参加してほしいとの要請を受けました。また、翌 26 日は Republic Day の祝日ということもあり、25 日夜はムンバイの街は色とりどりのイルミネーションがとてもきれいでした。Mr. Khaire が祝日の催し物の一環でインド音楽の音楽祭があるので興味があれば一緒に行きませんか、とお誘いくださったので、3 人のメンバーの方と一緒にインド音楽も楽しむことができました。「私たちは常に CIF を通じて多くの国の方たちと交流、意見交換をしたいので、インドへ来られたらいつでも連絡してください。」とのことでした。日本でも今年 IPEP を実施しますし、それ以外でも日本に来られることがあれば是非お会いしたいですと伝えました。



中央の男性が Mr.Khaire、その左が Ms.Nagarwala
左端筆者

忘れられない CIP 体験と 思い出の一枚

梶村慎吾
(1996Cleveland)

1996年11月から1997年3月まで、4か月間のCIP研修をアメリカ・オハイオ州クリーブランドで体験した。その年、CIP(現CIPUSA)研修に日本から4人が参加した。私以外の日本からの参加者は夏からの参加だったが、私の場合は研修施設の都合で11月からの参加となった。

私が研修でお世話になった施設はジュードソン・リタイアメント・コミュニティという高齢者施設で、当時施設に居住する利用者約450人、デイサービス利用者約30人、地域からの健康プログラム参加者約200人という規模であった。入所者には元気な人からアルツハイマーの人までに受け入れサービスを提供する条件を整えており、できる限り能力を生かして自分らしい生活を続けていけるよう配慮がなされている施設であった。施設のスローガンは利用者の「スマート・リビング(スマートな生き方)」の実現で、自分らしい自分の好む生き方を自由に楽しむことを理想としていた。利用者同士の交流も盛んで、施設内で結婚したカップルにも会った。

利用者本位の経営を象徴していると思うが、法人の経営に責任を持つ理事会に利用者代表が4名加わっていた。2名は選出された理事で投票権を持つ。他の2名は施設の自治組織的な利用者の委員会の会長で投票権を持たない。

この施設では、後半の人生における生活を充実させる「スマート・リビング」の重要な要素として3点を推奨していた。

(1) 健康を支える身体運動を行うこと (2) 知的刺激を高めること (3) 社会との密接なつながりを大切にすること

身体運動は専門の担当職員が毎日のように多くの利用者とともに実践していた。知的刺激については近隣の大学で聴講生として勉強する人などが目立った。またインターネットで子供向きのミニブックを発行している人がいたり、地域の子供達に読書を教えるボランティアをしていたりというように地域社会と積極的に関わる生活を実践している利用者も少なくなかった。(この経験は日本社会にも意味あるものと感じたので、のちに「人生を豊かに生きるために必要なものは何かー理想の高齢者施設を求めて」という本に日英両文でまとめて出版した。)

同年のCIP研修の参加者については夏からの参加者は多かったが、私のような11月ごろからの参加者はそれほど多くはなく10数名であった。各参加者の個別の施設での研修以外の、主としてCIPの歴史等を学ぶ研修については、11月頃からの参加者が集まって研修を受けた。思い出の1枚の写真はその時の仲間たちとのスナップである。



最前列筆者

これはクリーブランドの市民がCIP参加者を自宅に招いてくれた時の写真である。後列左端の男性がホストの主人で、その右の女性が当時のCIPのCEOドロシー・ファラーさんである。後半からの参加者には南アフリカからの人が多かった。

ホスト・ファミリーとの交流半世紀

坂本正路
(1971コロンバス)

私がホストファミリーのコリンズさんのお宅に着いた日は、丁度エミーちゃんの1歳の誕生日でした。ですから誕生日のお祝いと私の歓迎とを祝う夕食になったのです。その日から3週間、家族の一員として受け入れていただきました。コリンズさんとの交流は帰国後もクリスマスカードを交換して、今も続いております。10年ほど前にエミーさんが日本を訪れたのをきっかけにエミーさんともカードの交換をするようになりました。昨年もエミーさんから写真付きのカードが届きましたので、彼女の1歳児の写真と合わせて掲載いたします。



分かってほしい皆に生きる価値

田ヶ谷雅夫（1971 フィンランド・87歳）

相模原の知的障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者ら45人が殺傷された事件の裁判が始まった。植松被告の障害者殺害の動機は、ヒトラーの障害者安楽死政策に大きく影響を受けているらしい。社会に生産的に役立つかどうかだけで人間の価値を判断すれば、とめどもなく範囲は広がる一方なのである。担当する裁判官はこう質問してほしい「意思疎通の出来ない人間は生きる価値がないというが、では全国の特別養護老人ホームで生活する重度認知症のお年寄り何十万も抹殺すべきなのかどうか」と。障害者や高齢者抜きの社会などあり得ない。彼らの生きる価値は意味があり、尊重されねばならないことを今後の裁判過程で植松被告に分かってほしいし、それが全ての人々の共通認識になる機会となれば、無念の死を遂げた19人の方々への最大の手向けとなる事と私は思う。（新聞投書から）

CIF INTERNATIONAL の動き

「CIF の将来のあり方について」

—CIF2028年委員会中間報告より—

CIFには世界43か国600人余りが在籍する。2017年代表者会議Board of Directors（BD、議決機関）は、わたしたちの将来のあり方について検討する委員会を立ち上げた。委員会は各国支部に対し6項目（国際研修、国際大会、広報、組織、財政、その他）についてアンケートをおこない（回答率70%）、2018年BDで調査結果を報告。3日間にわたり項目ごとの分科会で議論した結果、以下の目標を提案し決議された。

CIFは2028年には—

- ソーシャルワークとその関連分野専門職の国際団体とする。（同窓会ではなく）
- 異文化間の交流を促進し、許容と理解を深め受容の精神と平和を実現する。
- 研修をとおして専門職の資質向上をはかる。
- それ自身学び続ける団体になる。

アンケートから、会員の高齢化、国際研修受け入れ枠の縮小など各国支部共通の課題が明らかになった。CIFの特色は国際研修であることを確認し、研修のPRと充実を図るため二つのワーキンググループ「1. コミュニケーション」と「2. 国際研修」を設置。それぞれに世界各国から老若の会員が5～6人ずつ委任され、各グループは協

議内容を2019年BDで報告した。

「1. コミュニケーション」グループは“言語の違いによる誤解をふせぐためには情報の共有がもっとも重要でありホームページ（HP）の活用が有効である”と訴えた。HPリニューアルの必要性とその作成・管理をプロに任せること、そのための予算措置を提案した。

「2. 国際研修」グループは、オーレンドルフ博士が提唱された国際研修を世代を超えて継承していくため、60年の伝統を踏まえて「研修運営マニュアル」の見直しを提案。応募申請書、ホストファミリーマニュアル、参加者アンケート（研修終了時に記入してもらうもの）なども表現の統一を図り簡潔なものに改訂することを提案した。

以上を受け、BDは以下の事項を決議した。

1. 本部HP担当職員の雇用またはリニューアルの外注。各国支部のHP担当者選任。
2. 研修運営マニュアル改訂版案を2020年前半中に作成する。各国支部による検討結果を踏まえて校正をおこないBD(11月)で承認する。
3. ZOOMなどビデオ会議システムの活用を検討する。

CIF INTERNATIONAL 役員会はこれらの決議事項を2020年事業計画と予算に計上し、BDの承認を経て執行することになった。 浅野記

参考資料：2019年CIF代表者会議議事録、CIF2028年委員会中間報告→WORLD NEWS WINTER 2019

http://www.cifinternational.com/?page_id=11

事務局より

IPEP フィンランド2020研修に参加者決定

藤原望美さん(大阪府女性生活支援センター職員)が、今年のフィンランド研修に参加することになりました。おもな専門分野は、支援を要する子どもや女性の問題です。本年5月4週間の予定。終了後は報告会を持つ予定です。

2020年度総会のご案内

日時：2020年4月25日(土)13:30～

会場：京都市（からしだね館）

*当日は、総会に先立ってIPEP研修生選考会、並びに理事会が行われます。

*開催案内、議案書は、後日お送りします。

《編集後記》

世界を騒がせている新型ウィルス。良くも悪くも、こんなにも世界はつながっているのだと。いよいよ第3回目の日本プログラム。良きつながりを発展させたいと思います。



International Professional Exchange Programs

IPEPs 2020



For professionals of social work, social welfare and human services

COUNTRY	DATES	FLYER	DURATION	DEADLINE	LANGUAGE	PROGRAM FEE	No of PARTICIPANTS
ARGENTINA	4 - 20 September 2020	Flyer English Flyer Spanish	2 weeks	1 March 2020	Spanish	€ 350	4-6
AUSTRIA	17 April – 5 May 2020	See flyer here	2,5 weeks	over	English	No fee	8
ESTONIA	Next program May 2021		2 weeks		English	€ 250	3
FINLAND	1 - 25 May 2020	See flyer here	3,5 weeks	over	English	No fee	6-7
FRANCE	3 - 27 June 2020	See flyer here	3,5 weeks	over	French	€ 350-500	3-8
GERMANY	1 - 22 May 2020	See flyer here	3 weeks	over	English, German if possible	€ 400	4-6
GREECE	10 - 23 May 2020	See flyer here	2 weeks	20 Feb 2020	English	€ 300	5
INDIA	6 - 25 January 2020	See flyer here	3 weeks	over	English	€ 325	3-10
ISRAEL	31 May –14 June 2020	See flyer here	2 weeks	over	English	€ 350	2-3
ITALY	Next program 2020						
JAPAN	9 – 24 October 2020	See flyer here	2 weeks	29 Feb 2020	English	€ 300	3
MOROCCO	13 – 26 March 2020	See flyer here	2 weeks	over	French and English	€ 350	3-4
NETHERLANDS	Next program Sept – Oct 2020		2 weeks		English	€ 350	5-8
NEPAL	18 Nov – 8 Dec 2020	See flyer here	3 weeks	15 August 2020	English	€ 500	3-5
NEW ZEALAND	Next program Oct – Nov 2020		4 weeks		English	NZ\$ 500	4-6
NORWAY	Next program 2020		2 weeks		English	No fee	4
RUSSIA	21 May – 3 June 2020	Flyer English Flyer Russian	2 weeks	15 March 2020	Russian	€ 300	3-6
SCOTLAND (UK)	2 – 30 May 2020	See flyer here	4 weeks	over	English	£ 300	4-6
SPAIN	18 Sept – 3 Oct 2020	See flyer here	2 weeks	1 March 2020	Spanish	€ 400	4-5
SWEDEN	17 April – 16 May 2020	See flyer here	4 weeks	over	English	No fee	9
SWITZERLAND	22 April – 8 May 2020	See flyer here	2 weeks	over	English	CHF 400	4-8
TAIWAN	7 – 21 March 2020	See flyer here	2 weeks	over	English	NT\$ 13,000	3-5
TURKEY	3 – 19 April 2020	See flyer here	2 weeks	over	English	€ 350	4-6
USA www.cipusa.org	March or August		4-6 weeks	Open	English	US\$ 1,000 – US\$ 1,500	Open

All programs provide participants with housing – usually living in host family - during the program and local travel.

For more information see IPEP flyers and visit our website: www.cifinternational.com

29 Jan 2020